

2019年9月25日

各 位

会 社 名 東京センチュリー株式会社  
代表者名 代表取締役社長 浅田 俊一  
(コード番号 8439 東証1部)  
問合せ先 広報IR部長 山下 圭輔  
(TEL03-5209-6710)

## 世界最大級の植物工場の事業化検討開始について

当社は、九州電力株式会社、株式会社九電工、株式会社スプレッドの3社と、九州電力株式会社の豊前発電所遊休地（福岡県豊前市）を活用した、次世代植物工場の事業化に向けた検討を開始することについて合意しましたのでお知らせいたします。

事業化検討を開始する次世代植物工場は、レタス日産5トンの生産能力をもつ世界最大級の規模を予定しており、野菜の安定供給に貢献する事業を目指します。株式会社スプレッドが開発した次世代型農業生産システム『Techno Farm™』の導入により、高度な栽培管理と大幅な栽培自動化が実現可能な完全人工光型植物工場※1となります。

### 次世代植物工場の特徴

- ・無農薬で栽培することによる「食の安全への貢献」
- ・天候の影響を受けない生産量・品質・価格の安定化による「食の安心への貢献」
- ・栽培工程のスマート化による「就労者不足解決への貢献」など



次世代植物工場完成イメージ

現在、計画地の適正性や市場調査などの基礎調査が完了しており、2020年3月を目途に事業性評価等の検討を行い、その後事業化を判断する予定です。

次世代植物工場では相応の電力需要が見込まれることから、工場屋根への自家消費用の太陽光パネルの設置や、V P P<sup>※2</sup>（仮想発電所）リソースとしての活用など、当社の再生可能エネルギービジネスとのシナジーによる新たな付加価値創出の可能性についても、あわせて検討する予定です。

当社は、今後もこのような多様なパートナーシップの活用により、金融・サービスと新技術の融合による技術革新に対応した新事業の創出や、地域・社会との連携を通じた社会インフラ構築への貢献など、新たな価値創造に取り組むことで、循環型経済社会の実現への貢献を推進してまいります。

※1 完全人工光型植物工場：外部と遮断された建物内でLEDと養液を用いてレタス等の作物を栽培する工場

※2 V P P：バーチャルパワープラント（仮想発電所）。電力の需給バランスを保つため、電力を使用する側の機器を制御し、発電所のように活用すること。

植物工場産レタスの調達等に関するお問合せは、[plant\\_factory@kyuden.co.jp](mailto:plant_factory@kyuden.co.jp) までお願いいたします（会社名、お名前、電話番号は必ずご記入ください）。

以 上

## 各社の概要と役割

社名	九州電力株式会社
代表者	代表取締役 社長執行役員 池辺 和弘
設立年月	1951年5月
資本金	2,373億円
所在地	福岡県福岡市中央区渡辺通二丁目1番82号
役割	工場建設・運営およびエネルギーマネジメントに関する検討 (省エネ化、VPPリソースとしての活用及び再エネ導入の可能性に関する検討)

社名	株式会社九電工
代表者	代表取締役社長 西村 松次
設立年月	1944年12月
資本金	125億5,506万円
所在地	福岡県福岡市南区那の川一丁目23番35号
役割	電気および空調設備の建設、維持管理に関する検討

社名	株式会社スプレッド
代表者	代表取締役社長 稲田 信二
設立年月	2006年1月
資本金	8,740万円
所在地	京都府京都市下京区中堂寺栗田町90番地 KRP8号館
役割	工場建設・運営に関する技術、ノウハウの提供

社名	東京センチュリー株式会社
代表者	代表取締役社長 浅田 俊一
設立年月	1969年7月
資本金	342億3,100万円
所在地	東京都千代田区神田練塀町3番地
役割	設備リースに関する検討